

令和5年度第2回奥州市総合教育会議

日 時 令和5年12月26日（火）午後3時30分

場 所 奥州市役所本庁7階委員会室

次 第

1 開 会

2 副市長挨拶

3 教育長挨拶

4 協 議 事 項

後藤伯記念公民館の耐震補強工事に伴う活用策等について

5 その他

6 閉 会

令和5年度第2回奥州市総合教育会議 出席者名簿

	職	氏 名
構 成 員	副 市 長	小野寺 隆 夫
	教 育 長	高 橋 勝
	教育長職務代理者	吉 田 政
	委 員	高 橋 キ エ
	委 員	松 本 崇
	委 員	菊 地 幸
協 働 ま ち づ く り 部	部長	千 葉 達 也
	生涯学習スポーツ課長兼奥州市江刺生涯学習センター所長兼江刺体育文化会館長	千 葉 学
教 育 委 員 会 事 務 局	教育部長	佐 藤 浩 光
	教育総務課長	松 戸 昭 彦
	学校教育課長兼学校再編推進室長	吉 田 博 昭
	学校教育課主幹県情報教育推進室長	菊 池 長
	歴史遺産課長兼世界遺産登録推進室長 兼菊田一夫記念館長	小野寺 正 行

後藤伯記念公民館の耐震補強工事に伴う活用策等について

総合教育会議資料

令和5年12月26日
協働まちづくり部
生涯学習スポーツ課

1 令和8年度の耐震補強工事をめざします

同公民館は、耐震診断により「倒壊する可能性が高い」と評価されたことから令和8年度に国庫補助事業による耐震補強工事の実施をめざしております。その前提となる国の登録有形文化財としての保存活用計画を「奥州市後藤伯記念公民館保存活用計画検討委員会」を組織して検討し、令和6年度に策定する予定ですが、その方向性に対し、ご意見をお伺いします。

2 建物の経過と現在の状況

S16 読売新聞社社長の正力松太郎が、会社再建の資金調達において後藤新平から受けた恩義に報いる形で「公民館」を建設寄付。

以来、水沢町公民館、水沢市公民館の名称で地域の社会教育施設として運用し、平成13年に水沢市公民館の新館を建設移転したことから名称を「後藤伯記念公民館」として現在に至る。

H30.3 耐震診断を実施。
結果は「倒壊する可能性が高い」

R1.12 国の登録有形文化財に登録

R5.4 耐震上の懸念、雨漏りによる腐食、老朽化により、安全対策のため不特定多数の利用を休止、全面休館



3 工事の方向性

- ◆ 日本初の「公民館」として施設の意匠を継承する。
- ◆ 施設の活用策による内装の改装を検討する。
- ◆ 柔剣道場（第2ホール）の位置が都市計画道路拡幅予定地であることから解体を予定しており、建物の保存の有無については移設等々の手段も含め、継続して検討。

3 関連する取り組み

保存活用計画の策定に関連する要素を例示します。

(1)水沢市街地活性化（未来羅針盤）

JR水沢駅から徒歩10分圏内のウォークブルエリアとして、駅前周辺の賑わいを創出
（イベント、マルシェ、歩行者天国等）

(2)「観光客の誘導」…後藤新平の実績内外アピール

記念館と公民館を連携し、後藤新平の国内外を通じた活躍の歴史、高まるインバウンド需要を逃さぬよう。

(3)公民館分は耐震補強工事、改装などによるリニューアル

先人の活躍に由来する歴史的建築物、同記念館と隣接する構成でありつつも、日常的に住民が利用する現役の集会施設

(4)日本初の公民館として後世に伝えるべき貴重な建築物

施設活用に「まちづくりは人づくり」の思想を。
～ 人づくりを重視した後藤新平 ～
将来を担う次世代育成拠点としての活用も視野に入れて検討

(5)管理体制の検討

記念館は教育委員会、公民館は市長部局の現状。
新たな記念館構想も含め、一体的な活用及び管理の検討

奥州市未来羅針盤図

市が目指すまちの開発デザイン

全市展開

1 地域医療奥州市モデルプロジェクト

地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制の構築

2 未来型公共交通プロジェクト

利便性の高い持続可能な公共交通システムの構築

3 小さな拠点づくりプロジェクト

地域住民・民間組織・市の協働による持続可能な生活圏の維持

水沢市街地エリアプロジェクト

メイプルリニューアル、
水沢公園リニューアル、
駅前周辺の賑わいの創出

江刺市街地エリアプロジェクト

誘致企業雇用者対策、官民連携による
市有地有効活用

小さな拠点づくり(伊手)プロジェクト

協働による持続可能な生活
圏の維持(旧伊手小学校を
活用した拠点づくり)

奥州湖周辺エリアプロジェクト

アウトドアフィールド・
アクティビティの開拓と
人材育成、民間企業との
連携強化

水沢江刺駅周辺エリアプロジェクト

南岩手交流プラザリニューアル、
駅周辺開発、鋳物産業と連携した
情報発信の強化

小さな拠点づくり(衣川)プロジェクト

協働による持続可能な生活圏
の維持(見守り電球を使った
高齢者の見守り、民生委員活
動にタブレット活用など)

前沢市街地エリアプロジェクト

駅周辺の生活環境の充実、デジタル
技術を活用した利便性の高い公共
交通システムの導入、未利用市有地
等の利活用の検討



水沢市街地エリアプロジェクト

狙い

【賑わい創出】市の中心としての賑わいを取り戻し、利便性の高い新たな居住空間を創出

【子育て環境の充実】安心して子育てできる医療環境、子育て環境の充実

【ウォーカブル空間の創出】歴史、教育、科学、医療、商業、公園、行政機関が集約され、徒歩で生活可能な空間創出

開発コンセプト

- メイプルリニューアル（賑わいと学びの拠点）
- 水沢公園リニューアル（新医療センター、憩いの場、健康づくりの場、子育て空間）
- 駅前周辺の賑わいの創出（イベント、マルシェ、歩行者天国等）

他のエリアとの戦略的連携

【江刺市街地エリア】アクセスの強化

【水沢江刺駅エリア】アクセスの強化

徒歩で生活可能な
ウォーカブル空間の創出
※駅から徒歩10分（800m）圏内

メイプルリニューアル



観測指標

通行量（歩行者）

H29	806人
R3	583人



R8	人
----	---



駅前周辺の賑わいの創出



水沢公園リニューアル

